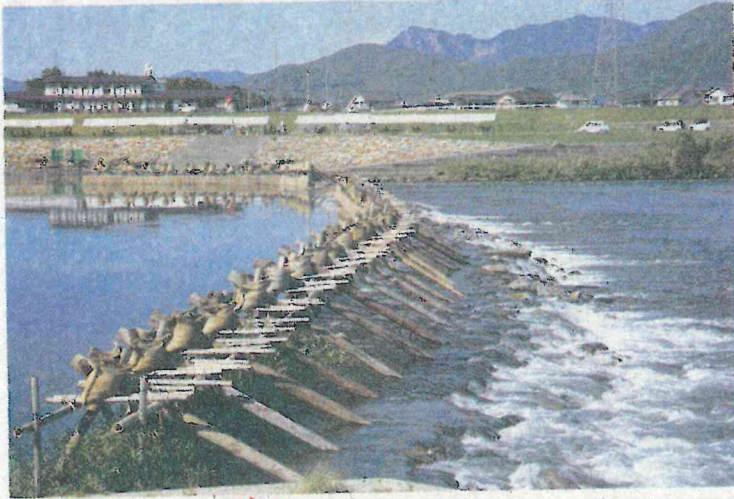


九州初「かわまち大賞」



省 交 国

延岡市 五ヶ瀬川かわまちづくり

歴史と文化を利活用 高く評価

13/24

国土交通省は18日、今年度の「かわまち大賞」を発表し、延岡市の「五ヶ瀬川かわまちづくり」が九州で初めて受賞した。あゆやなや豊堤など、歴史・文化を利活用しながら継承している取り組みが高く評価された。同賞は2018年度に創設され、全国各地の「かわまちづくり」の中から、先進的な取り組みを国土交通大臣が表彰している。

延岡市の「五ヶ瀬川かわまちづくり」が九州で初めて国土交通省の「かわまち大賞」を受賞。あゆやなや豊堤など、歴史・文化を利活用しながら継承している取り組みが高く評価された。

かわまちづくりとは、「かわ」と、それにつながる「まち」を活性化するため、歴史や文化といった地域資源などを生かし、行政や民間、住民、河川管理者が連携し、地域の「顔」の誇りとなるような空間形成を目指す取り組み。今年度のかわ

まち大賞は2カ所でもう1カ所は東京都墨田区の北十間川かわまちづくり。五ヶ瀬川かわまちづくりの推進主体は、宮崎大学や延岡観光協会、延岡市区長連絡協議会、延岡市などで構成する「五ヶ瀬川かわまちづくり検討

会」。12年度に設立された。実践組織の「天下一五ヶ瀬かわまち創ろう会」による活動を推進・検証しながら、五ヶ瀬川、大瀬川に囲まれた川中地区を中心に、新たな水辺空間の創出を目指している。

実践組織には「文化・自然活動ゾーン」回遊できる散策路「自然の恵み体験拠点」の各部会があり、さまざまな活動主体

がそれぞれの役割を持ち、連携しながら戦略的・総合的な取り組みを行っている。300年以上の歴史を持つ地域資源のあゆやなを中心とした拠点施設を整備し、食事処（どころ）を設置。水防歴史文化である「豊堤」の常設展示、「延岡花物語」延岡わかあゆマラソン大会の開催など、歴史・文化を守り、にぎわいを創出する活動を続けている。

表彰状は25日に延岡市で伝達

表彰伝達式は25日、東京の国交大臣政務官室で行われる予定だが、新型コロナウイルス感染防止の観点から、五ヶ瀬川かわまちづくりについては同日、国交省延岡河川国道事務所表彰伝達式が行われる。

五ヶ瀬川かわまちづくりは13年3月、かわまちづくり支援制度に登録された。同制度には現在、229件が登録されており、そのうちの7件が今年度のかわまち大賞に応募。審査は河川に造詣が深い、建築・都市史、観光、地域政策の分野の有識者3人の委員が先進性、継続性、創意工夫、連携性、効果の五つの観点の評価を基に、委員の総意で決定した。